

國頭村に於けるフィラリヤ症について

花城清剛、城間盛吉、永山修、上原直三

緒 言

フィラリヤ症は、北は青森縣から南は鹿児島、沖縄に至る迄その浸淫がみられるが、鹿児島、宮崎、長崎等九州は濃厚で、10~40%に近い感染率の報告されたところもある。沖縄に於けるフィラリヤ感染状況に就いては、沖縄縣衛生課の調査成績(自昭和八年、至同十二年)があり、戦後に至つては國吉(宜野座村住民のフィラリヤ仔虫検査成績獸醫畜産課 No. 112、19536)フランクの諸氏による報告がなされて居る。

吾々も亦戦前本症の濃厚地帯であつた國頭村七ヶ部落について感染状況の推移を観察する爲、住民1852名の検血を行つた結果、今以つて新しい感染が繰返されている事実を知つたので茲に報告する次第である。

調 査 方 法

調査地は國頭村邊土、宇嘉、邊野喜、桃原、鏡地、濱、奥間の七部落で各年令層にわたる一般住民男女計1852名、午後10時以降午前1時に至る耳朶採血厚膜標本を作製し、ギムザ染色を施して鏡檢同時に有症者の調査を行つた。尙本調査は1953年5月中に行われた。

(第一表) 調査地別フィラリヤ浸淫状況

調 査 地	調査人員	仔 虫 +	仔 虫 陽性率	症 狀 +	症 狀 具有率	感染者	感染率
邊 土	278	10	3.60%	12	4.32	19	6.33%
宇 嘉	201	31	15.42	18	8.96	45	22.40
邊 野 喜	286	28	9.44	57	19.93	67	23.40
桃 原	237	8	3.38	5	—	11	4.60
鏡 地	222	15	6.76	1	—	16	7.20
奥 間	301	14	4.65	10	3.32	23	7.60
濱	327	15	4.95	3	—	18	5.60
計	1852	121	6.53	106	5.64	199	10.70

調 査 成 績

地域別にみた感染状況(第一表)

邊野喜286名(總人口の8割)中感染者67名、感染率 23.4%(仔虫陽性者28名、仔虫陰性者39名)を最高に、宇嘉 22.4%が之に接近し、奥間、鏡地、邊土、濱、桃園の順となつている。特に注目されることは宇嘉、邊野喜の状況であるが邊野喜區は病症の比較的古い有症患者が多数を認め、宇嘉區は病症の新しい患者が多数を占めている關係で若年者に仔虫發見率が高い。此の様相は宇嘉に於て特に新感染が繰返されているものと考えられる。なお本調査に於て檢出された仔虫はバンクロフト種であり、マレイ種を確認したものは一例もない。

(第二表) 年令別フイラリヤ症感染状況

調査地	調査人員	仔虫+	仔虫陽性率	症状+	有症者率	感染者	感染率
1~9	476	11	2.33	0	(%)	11	2.31%
10~19	551	31	5.63	4	0.73	32	5.81
20~29	196	18	9.17	14	7.14	29	14.7
30~39	214	22	10.28	14	6.54	31	14.4
40~49	187	12	6.42	14	12.83	30	16.04
50~59	144	21	14.58	30	20.83	42	29.16
60~69	72	6	8.33	18	25.00	22	30.56
70~	12	0	0	2	16.67	2	16.67
計	1852	121	6.53	106	5.64	199	10.75

年令別にみた感染状況

フイラリヤ感染者は健康保虫者と有症状者から構成されるが、各年令者に於ける状態を見ると9才以下の2.31%から年令の進むに従つて漸次上昇し60才台になると30%以上の高率に達する。特記するべきは9才以下では感染者の全部が無症状保虫者であるが、年令の増加と共に有症状者が多くなり、40才以上になると感染者の大部分が何らかの症状を顯す様になり、50才を越すと

前者の数が逆轉する傾向となる。仔虫の検出率は9才以下2.33%で漸次上昇し50才台で14.5%と最高率を示し以後は次第に低下して行く(第二表)

(第三表) 有症状者の仔虫陽性率

年 令	調査人員	仔虫陽性者	仔虫陽性率
無症状者	1746	93	
有症状者	106	28	
1~9	0	0	0
10~19	4	3	75.00
20~29	14	3	21.43
30~39	14	5	35.71
40~49	24	6	25.00
50~59	30	9	27.59
69~60	18	2	11.11
70~	2	0	0

之と並んで各年令層於にける有症状者の仔虫陽性率を見ると未だ病歴の新しい患者には75%という高率であり、60才以下になるとぐつと低下していることはマイクロフィラリヤ(Micro Filaria)は病歴の新しい程発見し易いということの意味する。

(第四表) 男女別フィラリヤ感染状況

性 別	調査人員	仔虫陽性者	仔虫検出率	有症状者	症状具有率	感染者	感染率
男	786	53	6.74	48	6.11	82	10.42
女	1066	68	5.38	58	5.63	117	10.98
計	1852	121	6.53	106	5.67	199	10.75

男女別感染状況(第四表)に見られる通りであるが、双方に大差を認めない。

結 語

- 1 國頭村に於けるフィラリヤ感染率は10%内外と推定する。
- 2 宇嘉、邊野喜地區は感染率も高く、それぞれ22.4%、23.4%を占めているが

戦前の統計資料が乏しいので比較出来ない。しかし比較出来る出来ないに拘らず23%という感染率は重大である。

- 3 若年者層に於ける感染濃度は重要な問題を含んでおり、就中宇嘉地區に於いて幼年者に健康感染者(無症状保虫者)を多く発見したことはその地區に於ける感染危険度の上昇を意味し現在のフィラリヤの浸淫が上昇線にあるものと考え。本調査に於ける仔虫保有最低年齢は3才である。従つて宇嘉區に於ける対策は對原虫、對蚊族共に急を要するものと考え。
- 4 フィラリヤの治療は殆んどなされていない。之は住民の風土病に對する一般的傾向も手傳つている。又より以上の豫防対策が期待されなければならない。
- 5 國頭村に於ける感染源としての意義は第一に宇嘉、邊野喜の如き濃厚感染地帯の明らかな存在であり、第二に30才から50才台以下の仔虫陽性度高き患者である。従つて豫防対策に當つてもこの事を考慮する必要がある。

(參考文献略)